

平成27年第3回岩国市議会定例会会議録（第1号）

11番 武田伊佐雄君。（「頑張れよ」と呼ぶ者あり）

○11番（武田伊佐雄君） 皆さん、おはようございます。11番 憲政会の武田伊佐雄でございます。先週の北関東中心における豪雨被害については、多くの方が被災され、今も生活に大変困られていることと思います。一般質問を始める前に、心より被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、まだ行方不明となっている方もおられますので、一日も早い安否の確認と、それから一日も早い復興を願って、これからの一般質問を行わせていただきます。よろしく申し上げます。

それでは、通告に従い一般質問をさせていただきます。

まず、大きな項目の1、科学センターについて。

（1）科学センターの取り組み状況についてお尋ねいたします。

先月、8月30日に開催された市民科学講座の様子をうかがわせていただきました。ペットボトルロケットなどのおもちゃをつくる講座で、多くの御家族が応募されたために、急遽、午後の講座も開講されるとの盛況ぶりでした。完成したロケットをうれしそうに飛ばして遊んでいた光景は、とてもほほ笑ましいものがありました。科学に親んでいただくよい講座をされたと思いますが、そのほかどのような取り組みをされているか、最近の状況をお示してください。

次に、（2）科学センターの担う役割についてお尋ねいたします。

先日、教育民生常任委員会として、千代田区にある科学技術館や渋谷区のハチラボを視察させていただきました。それぞれ財源や運営方法は異なりますが、これから岩国市の科学センターを考える上では大変参考になったと考えております。ハチラボでは、渋谷からノーベル賞をとという気概で科学講座に対する取り組みをされていますが、市民に対して岩国市の科学センターはどのような役割を担っていると考えられているのかお聞かせください。

（3）環境設備計画の進捗状況についてお尋ねいたします。

昨年9月の教育民生常任委員会において、施設の老朽が著しい科学センターについては、リニューアルではなく新設に向けて考えたいとの執行部側の前向きな答弁がありました。しかしながら、いろいろな公共施設の建てかえの時期が迫っているため、公の施設の配置計画を今年度くらいに考え、計画を立てる部署の必要性もその委員会では述べられていました。その後の進捗状況はいかがでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、大きな項目の2、学校環境について。

（1）学校配置計画についてお尋ねいたします。

私は現在、地元小学校のPTA役員を受けております。中山間地域の小規模校においては、生徒・児童数の減少がとめられない状況は深刻な問題です。平成24年に教育委員会から相談があり、近隣の学校との統合を検討しましたが、残念ながらうまくまとまりませんでした。今年度、岩国市ではコミュニティ・スクールの完全導入もされましたが、学校配置計画とのかかわりが気になるようです。改めて、現状の学校配置計画がどのようになっているのかお示してください。

最後に、（2）学校施設についてお尋ねいたします。

先日、御庄小学校にプールがないので何とかならないのだろうかかと相談を受けました。岩国市にプールがない学校があるのかと正直驚きましたが、今は閉校になった御庄中学校のプールまで歩いて行って利用しているという状況です。ほかにも岩国市内の学校でプールや体育館など、必要な施設がないところはあるのかお聞かせください。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○教育長（佐倉弘之甫君） 第1点目の科学センターについてお答えします。

まず、（1）科学センターの現状についてですが、岩国市科学センター条例では、市民の科学知識の涵養及び科学技術の向上を図ることを目的に、岩国市科学センターを設置すると規定されております。科学センターは、準備期間を経て昭和35年に設置されて以後、場所を変えながらも「自然」と「道具」をキーワードに、科学への興味を育む環境づくり、学校では取り組みにくい体験活動の充実、暮らしの中の科学や道具についての学びの推進を経営の基本方針として、事業を展開しております。

市民、教員、児童・生徒を対象として科学講座の開催、児童・生徒のすぐれた科学作品や岩石・鉱物、昆虫など岩国市にちなんだ標本の展示、基本的な道具の使い方が学べる科学教室の開催、暮らしの中に科学を見つける科学思想の普及、理科教育研究のための資料の整備や相談会などを主な施策項目として掲げております。

科学センターの設置から55年が経過しましたが、これまで標本や科学工作物の展示、各種科学教室や科学クラブの運営、JAXA・宇宙航空研究開発機構や京都大学iPS細胞研究所から著名な科学関係者を招いての講演など、市民各層に科学学習の場を提供し、科学への親しみや科学知識涵養と科学技術の向上を図ってまいりました。今後も、より専門的で高度な学習の場が提供できるような事業を進めたいと考えております。

次に、（2）科学センターの担う役割についてお答えします。

科学教育については、まず、小・中学校などで行われる理科の授業が基本にあるべきだと考えております。その上で、教育委員会といたしましては、先ほど述べましたように、科学への興味を育む取り組みや学校では取り組みにくい体験活動を展開するとともに、学校の先生方への支援や教材研究の一助となるような研修会を開催しており、これからも内容を精査しつつ推進してまいります。

また、産官学の連携が重要視され、科学センターの事業においても、その必要性や有用性から、主要な事業の一つである青少年のための科学の祭典において、山口大学や市内外の高等学校等の出展をいただくようになりました。特に、山口大学工学部附属ものづくり創成センターとは、平成26年4月に科学技術理解増進活動について相互に連携を行う協定を結び、事業を進めております。今年度は、科学クラブの一つである科学実験クラブにおいて、直接、山口大学の先生の指導を受け、理科実験クラブにおいては、周南市の株式会社シマヤから講師の派遣を受けた教室を開催しました。

今後は、市内の民間企業への働きかけを行い、互いの特徴や強みを生かして、科学講座等の開催を通じて市民の科学への関心や知識、考察力の向上につなげてまいりたいと考えております。

次に、（3）環境設備計画の進捗状況についてお答えします。

科学センターは、昭和35年に市役所本庁舎に設置されて以後、横山の旧岩国高校の講堂や山手庁舎などに移転した後、平成21年1月に、現在使用している麻里布庁舎に移転しました。現施設は科学センターとして建設した施設でないため、科学センターの学習環境としては十分とは言えず、多くの市民の方々から科学センターの整備について、さまざまな御意見をいただいております。

科学センターの整備につきましては、旧岩国市において、平成12年に岩国市科学センター基本計画策定審査委員会から報告が提出され、整備に向け具体的な計画を策定する予定でしたが、建設場所の選定や建設費の財源等の課題が解決できず、今日まで具体的な整備計画を策定できないのが実情です。

今後は、科学センターの事業内容の検証を行い、科学センターの役割、施設の規模、必要な設備等を検討しつつ、平成28年度に策定予定の公共施設等総合管理計画と整合性を図りながら、科学センターの整備についての新たな方針を策定し、市民が気軽に科学に親しめる科学教育の拠点施設としての役割を果たせる科学センターとなるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、第2点目の学校環境についての(1)学校配置計画についてお答えします。

少子化の進行により全国的に学校規模が縮小傾向にある中、教育委員会では、平成21年2月に、岩国市の小・中学校の適正な学校規模や学校配置に向けての基本的な考え方を定めた岩国市立学校適正規模適正配置に関する基本方針を策定しました。その後、保護者や地域の方々との意見交換会やアンケートの結果を踏まえ、平成23年3月に岩国市立学校配置計画を策定しました。本計画では、小学校においては、5学級以下の学校及び将来5学級以下の学校となると見込まれる学校について、適正化を推進し、中学校においては、3学級以下の学校で将来生徒の減少が見込まれる学校について、適正化を検討するという方向性を示しています。

教育委員会は、この計画に基づき、各地域において学校配置検討協議会を設置し、保護者や地域の方々との協議を重ねてまいりました。協議の結果、学校を存続することとし、統合を選択しなかった地域もございますが、平成25年4月には、天尾小学校が杭名小学校に統合し、平成26年4月には、祖生東小学校と祖生西小学校が統合して、その小学校が新設され、中学校においては、御庄中学校が岩国中学校に統合しました。今後は、平成28年4月に、中田小学校が高森小学校に統合するほか、玖珂小学校と玖珂中央小学校が、平成29年4月の新校舎の供用開始とともに統合することが決定しています。

児童・生徒の減少とともに学校が小規模化していくという傾向は、今後ますます進んでいくことが考えられ、教育委員会としましては、適正化の推進及び検討の対象となっています学校につきましては、引き続き、保護者や地域の方々との協議を行っていくこととしております。今後とも、よりよい教育環境の確保を目指し、学校の適正規模・適正配置に取り組んでいきたいと考えています。

次に、(2)学校施設についてですが、岩国市の市立小・中学校施設につきましては、延べ床面積が200平方メートルを超える施設が、校舎や屋内運動場などで181棟あり、そのうち、文部科学省の調査による平均改築時の建設後年数である43年を超える施設が39棟ほどあり、施設の老朽化が進んでいるのが現状です。現在、教育委員会としましては、児童・生徒の安心・安全や快適な学習環境の確保のために、耐震化工事、空調設備整備工事を最優先として取り組んでおりますが、今年度着工します玖珂小学校の校舎を初めとする改築等への取り組みも、今後、早急に、かつ加速的に行っていく必要があると考えております。

また、授業で必須となっている水泳を行うプールを保有していない学校については、玖珂小学校、美和西小学校、玖珂中学校、周東中学校、美和中学校と5校あり、保有しているものの敷地内になかったり、敷地に隣接していなかったりする学校も、米川小学校、御庄小学校、錦中学校等、全部で6校ほどあります。加えて、杭名小学校では敷地の制限などの理由で屋内運動場が設けられていないという状況もあります。

教育委員会としましては、安全で安心して教育が受けられる環境の整備を教育方針と掲げておりますが、児童・生徒の生命を守るための耐震化工事や、近年の酷暑に対応するための空調設備の整備を計画どおりに進めていくことはもちろんのこと、今後は、施設の老朽化対策や、学校や地域からの要望の多い施設の整備などに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。また、これらの学校施設の整備には多額の経費を要するため、市にとって有利な交付金や補助金などの活用を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○11番(武田伊佐雄君) それでは再質問させていただきます。

順番は入れかわりますが、先に、学校環境について伺います。

学校配置計画についてですが、統合を選択せずに学校を存続させているところが幾つあるのかお示してください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

平成27年度の小学校についてでございますが、11校ございます。平成28年度からは中田小学校が休校する予定となっておりますので、平成28年度では10校となる見込みでございます。

○11番（武田伊佐雄君） 各学校の生徒数と、またその学校の複式学級における状況とかというのをちょっと伺いたいと思います。

○教育次長（小田修司君） それでは、各学校について答弁させていただきます。

まず、小瀬小学校ですが、27年度5月時点の数字でございますが、児童数23名、複式学級は3学級ございます。続きまして、杭名小学校につきましては児童数53名、複式学級につきましては1学級ございます。次に、河内小学校、児童数37名、複式学級については2学級ございます。柱野小学校、児童数20名、複式学級については3学級ございます。由西小学校、児童数13名、複式学級については2学級ございます。神東小学校17名、複式学級については3学級ございます。中田小学校、児童数5名、複式学級については1学級でございます。川上小学校、児童数20名、複式学級については3学級ございます。米川小学校につきましては、児童数が54名で、ここには27年度については複式学級はございません。修成小学校、児童数26名、複式学級については2学級ございます。周北小学校、児童数8名、複式学級については2学級ございます。

○11番（武田伊佐雄君） 今お伺いすると、多くの学校で完全複式があるんじゃないかと思います。それで、やはりこれから教育委員会のほうとして、各学校のほうにこれまで平成24年のときのように、地域の方々にどのようにしていくのかというふうなお話を教育委員会のほうから持っていくようなお考えはあるかお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

議員がおっしゃられたように、平成23年度から各学校へお話に参りました。その結果、24年度等に一定の結論といえますか、御回答が各地域からございました。その後につきましては、先ほどお話ししました中田小学校ですが、統合に向けての保護者等から御意見等があれば、教育委員会からも地域に出向き、保護者や地域の方と協議して、統合に向け、適正配置に向けて協議をしております。ただ、前回23年度から各地域に参りましたような、各地域に教育委員会から積極的に出向いていくということは現在いたしておりません。

○11番（武田伊佐雄君） これまで教育委員会の方々が各地域に足を運ばれて御尽力されたことは、自分も会議に出席した者として、少なからず承知しているつもりですが、その上で次のことをお願いしたいと思います。

これまで学校配置検討協議会で統合を選択されなかったところに定期的に足を運んでいただきたいと思います。PTA役員の改選は毎年行われます。また選択肢も変われば答えも変わってくると思います。地元やPTAの皆さんが話し合いをしてみようとするきっかけをつくっていただきたいと考えます。

先日、千葉県市原市の加茂学園を小・中一貫校の先進事例として見てきました。加茂学園は中学校を中心に八つの小・中学校が統合してできた学校です。地元の要望を聞いて、と資料にはありましたが、実際はどうなのかと尋ねてみると、その初動については教育委員会が統合に働きかけたとの回答でした。地元の話で恐縮ですが、小学校の耐震工事にかける費用があるなら、岩国西中学校に校舎を建て増しして、小・中一貫校をつくってもいいんじゃないかという声も聞きます。岩国西中学校なら錦川清流線の駅も近いので、錦川沿線からの通学も可能ではないかと考えます。岩国西中学校を基点とした小・中一貫校の構想はないか、お尋ねいたします。

○教育長（佐倉弘之甫君） 私のほうでお答えしたいというふうには思っておりますが、基本的には統廃

合はこれからは教育委員会だけでやるものではないというふうに思っております。これからはまちづくりとリンクして、連動してやるものであるということに思っておりますし、これまでの経緯の中からも、地域の方々、それから保護者、もちろんPTAですが、そうした人たちと丁寧にお話ししながら、まちづくりを含めた統合というものを考えていきたい。そういう中で、西中学校を中心の小・中学校一貫校をどうかということで、私もまさに議員と同じような思いは持っておりますが、やはり杭名は杭名地区の、あるいは天尾は天尾地区の、それぞれのまちづくりの視点もあるというふうに思っておりますし、それと河内小学校がどのようにやっていくか、子供たちにとってどのような学校づくりがふさわしいのかという点の中で、今後検討していきながら、西中学校を中心に小・中一貫校連携型、あるいは隣接型、一体型、こうしたものを探っていきたいというふうに思っておりますので、しっかり足を運びながら、御意見を聞きながら、フットワーク、ヘッドワーク、それからハートフルに取り組んでまいりたいというふうに思います。以上です。

○11番（武田伊佐雄君） 先ほど、まちづくりは市民の皆さんと話をしていきたいというふうなことも言われましたけれど、私もそのように思っているので、前回の議会等でも、やはり市民協働という形でこれまで質問をさせていただきました。

で、先ほど私のほうからもちょっと発言させてもらったんですけど、PTAの役員の改選というのは毎年行われるんです。で、保護者の皆さんがいろいろ自分たちの学校に対して思いがあっても、どう発言していいかわからない、どこに相談していいかわからないというふうなこともあります。そして、今、コンパクトシティという構想も大分耳にするようになってきたかと思えますけれど、まちづくりにおいては、それを地域の方に話を持ってこらすというのは難しいと思うんで、やはり先ほども申し上げましたように、教育委員会のほうから話をするきっかけづくりをしていただきたいと思います。

先日、ほかの議員からもあったと思うんですけど、JRの定期券と、それから錦川清流線の定期券と、やはり交通のことで地域格差をどうして是正していくのかという話、議論があったと思います。同じようにやはり今回の件は、自分のところの町をどうしてくれ、地元をどうしてくれという話じゃなくて、岩国の錦川沿線、大きな話になるかと思うんですよ。当然、やはりコミュニティ・スクールを進める上で、地元の人たちと学校とのかかわりというのは大きく問題になってくると思います。当然、自分たちのところも、自分たちの住んでいる地域に学校を残したいという思いは、皆さんそれぞれ多く思っています。だけど、なかなか財政も厳しい中、これから先々、どれだけの期間使えるかわからないような校舎に多額の税金を投入することが果たして適切なのかというのは、住民の方々もやっぱり心配してくださっているんです。だから大事なのは、しっかりと行政側のほうから市民に対して意見をいただくようなきっかけづくりをしていただきたいと思いますので、そういったところはぜひ行政がイニシアチブをとっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

一応、今のことで答弁のほう、どのように感じられるかお聞かせください。

○教育長（佐倉弘之甫君） できるだけ——できるだけではなくて、しっかりそういったように教育委員会としてもイニシアチブをとりたいというふうに思いますが、今御案内のように、進めておるコミュニティ・スクールづくり、それから地域協育ネット、そうした中が充実していくことによって、地域の人たちの、あるいは保護者の意見もその中に集約されながら運営協議会で検討されますので、そういうふうになるように私たちも努力していきますし、PTAからの陳情も、市長陳情、それから教育長ともに受けて、それぞれの学校からのさまざまな要望が出ておりますので、そういう中でもしっかりと協議をしてまいりたいというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） しっかりと地元の方の話を聞く機会をつくっていただいて、よりよい学校

環境をつくっていただきたいと思います。

次の質問ですが、学校施設について伺います。

先ほどの答弁では、プールがない学校が6校、屋内運動場がない学校が1校という答弁があったと思います。これらの学校から施設の要望は上がっているのかお尋ねします。また、もし要望が上がっているのであれば、今までの対応をお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

プールと屋内運動場の関係でございますが、玖珂小学校と御庄小学校のプールの整備につきましては、強く要望をいただいております。まず、玖珂小学校につきましては、現在、校舎の改築工事をしております。校舎の改築の整備工事が終了しましたら、プールの整備に向けて進んでいきたいと考えております。

また、要望の強い御庄小学校につきましては、以前、昭和50年代の話ですが、プール用地が確保できなかったことによりまして、昭和54年に御庄中学校用地内にプールを整備したという経緯がございますが、地元自治会等の御協力によりまして、若干、十分な面積とは言えないかもしれませんが、プール用地として隣接地が取得可能と思われる状況となってきましたので、今後、プール用地の取得に努めて、プールの整備に向けて努力していきたいというふうに考えております。

○11番（武田伊佐雄君） それでは、御庄小学校のプール建設について要望がなかなか聞き入れられてなかったみたいですが、どのような問題点があるのかお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

現在の御庄小学校の敷地内にはプールを整備するだけの用地がございません。御庄小学校や御庄地区自治会連合会から、隣接地を取得してプールを整備するよう提案を受けております。

隣接地を取得いたしましても、校舎等の関係から、現在使用しております御庄中学校にあるプールと同程度の規模のプールを整備することは難しいと思っております。ただ、御提案をいただいて、学校等と協議を行ってまいりましたが、プールの幅が現在使用しているプールよりも狭くなっても、小学校での授業等への影響は少ないと思われるという協議結果になりました。今後につきましては、プール用地として、隣接する土地の確保に努めまして、プール及び関連施設の効率的な配置を検討させていただきたいと思いますし、建設の整備費の財源確保についても努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） それでは、御庄プールのほうは実現に向けて一歩踏み入れたというふうに解釈しておきます。

御庄のことについて申し上げるのであれなんですけれども、今、道路計画のほうも御庄のほうは進んでおまして、交通量のほうもふえてきています。御庄中学校のプールがあるからという形で今まで歩いていかれていて、安全面を危惧される声も聞いておりますし、これからいろいろその対応についてはよろしくお願ひしたいと思うんですけれども、一つ提言しておきたいことが、やはりいろいろな環境、皆さん十分ではないところもあるかと思ひますけれども、一つ考えていただきたいのは、児童・生徒の立場になって物事を考えていただきたいと思ひます。例えば御庄小学校の生徒なんですけれども、中学校のプールに行くのに、安全面を考慮して、じゃあどのようにするか。現在は警備の人に立っていただいて、交通事故がないように配慮していただいております。それ以外にも今後また対策を立てたとしても、やはり移動する時間をとられる、限られた授業時間、これを移動のために使われるということは、子供たちの教育環境、必ずやっぱりマイナス面が出ると思ひますので、それをやっていることで子供たちにどういふ悪影響があるのか、どういふふうに改善するべきなのかという観点で、学校の環境整備については

ひ今後御検討というか、しっかりやっていただきたいと思いますので提言させていただきます。

それでは、科学センターについて再質問を行います。

先ほど、JAXAやiPS細胞研究所から著名な科学関係者を招いての講演会を開催されたという答弁がありました。一般的に関心が高そうな講演は少し前の話で、最近そのような著名人の講演は企画されていないと感じますが、そのところをどのようにになっているのかお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えさせていただきます。

昨年度、平成26年度におきましても、JAXAに対しまして、若田飛行士ミッション報告会の募集がありましたので、6月に応募をいたしました。ただ、JAXAからの返答では、申し込みが多数であったため、岩国市での開催はできないということで、開催を実現することができませんでした。

それと、平成27年度、今年度でございますが、今まで、京都大学のiPS細胞研究所に市民科学講座の開催について依頼をしておりました。この9月になって御返事をいただきましたが、平成28年3月に、京都大学のiPS細胞研究所の未来生命科学開拓部門の主任研究者をされています沖田圭介博士によるiPS細胞の現状と今後の展望ということの趣旨で御講演をいただくことを引き受けていただける状況になりました。

現在、詳細な点を調整しておりますが、その辺が決まりましたら、市報等を通じて市民の皆様にお知らせをしていきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

○11番（武田伊佐雄君） 何もいろいろ皆さんの関心が高い科学というのはJAXAとかiPS、宇宙とか生物だけじゃなくて、いろんなジャンルがあると思いますので、またロボット工学であったりとか、これからはリアモーターカーとかいうのがまた注目されるようなことも考えられるかと思っておりますので、さまざまところにしっかりアンテナを張って、応募したけど蹴られたのでことしはありませんということがないように、多くのところでいろんなものができれば、決して年に1回である必要はないかと思っておりますので、いろいろ前向きにやっていただいて、市民の皆さんの科学の好奇心をしっかり満たせるような講座を開設していただけるように提言いたします。

それから、科学センターのホームページが最近更新されました。デザインも新たに更新されて大変よくなったと感じております。しかし、これ実は先月末まで、1年半くらいの期間じゃないかと思うんですが、情報の更新が滞っているところが見受けられました。これは、ホームページの更新がされていないのはどこに原因があって、今後どのような対策を立てるのかお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

私も昨年4月から6カ月間ほど科学センターの館長をしておりました。事務引き継ぎ等が十分じゃなくて、ホームページの更新ができていなかったという事実がございます。深くおわびを申し上げる以外ございません。どうも申しわけございませんでした。

今までにつきましては、それぞれのホームページについての担当とか責任が明確ではございませんでした。今回御指摘を受けましたので、総括責任といいますか、総括管理は館長が定期的にホームページ全体を確認をします。それと、それぞれ担当を設けてきちっと担当を明確にし、更新等につきましてはその担当者が適宜行いますが、館長も具体的に更新をされていなかったら担当職員に指示するという体制にしましたので、今後はこのようなことがないようにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） 科学センターのホームページなんですけれど、大変デザインも変わって、写真とかもすごく使われて見やすくなったし、見ているとどのような状況で科学センターが行われているかというのがよくわかるようなホームページになっていたの、これは大変評価されるべきものと思

いますが、まだちょっと行事予定のほうを更新されておりません。行事予定がないというのは——これは科学実験クラブの指導計画表なんですけれど、7月28日から8月26日までの計画表があります。これは実際に父兄の方に配られたやつなんですけど、夏休みに入る直前に配られた計画表です。この6回分の予定が記載されているんですけど、6回のうちの3回が内容が未定となっています。このような計画表を見ると、科学センターの計画性に疑問を抱きます。また、予算についても、運営費が少ない中でよく頑張られていると思うんですが、その反面、しっかりと講座を計画されれば、必要な予算要求ができるのではないかと考えます。その点はいかがでしょう。

○教育次長（小田修司君） お答えさせていただきます。

今、議員の御指摘があった科学実験クラブでございますが、このクラブの運営につきましては、科学クラブの指導員の先生に中心になって行っていただいています。その指導員ですが、中学校の理科を担当している先生方が多いという状況がございます。それで、実際に委嘱をするのも4月になって委嘱をし、それと、科学実験クラブにつきましては夏休みに行くということで、なかなか内容については決まらなかったということがございます。指導員の方と科学センターとの連携を密にするということと、事業の内容が決まりましたら、参加者等へは連絡をするとともに、今言われましたホームページ等にも速やかに掲載をしまいたいと思っております。

それと、費用につきましては、先ほどの科学クラブの指導員の関係の報償費等につきましては、予算の範囲内ということでやっております。それと、あとは現在、山口大学の工学部のものづくり創成センターと連携協定を結んでおりますので、そちらからいろんな科学センターの事業に経費を出していただいているということがございます。今後、科学センターで新規の事業といいますか、新たなことをしようというときには、きっちりと積算をして予算要求をしまいたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○11番（武田伊佐雄君） しっかりと計画を立てて予算要求のほう、積み上げで恐らく必要になってくる金額というのがあるはずなんで、そこら辺のところを教育の観点から執行部側のほうにしっかりと説明して、予算のほうを立てていただきたいと思います。また執行部側も、岩国の教育についてしっかりとそこら辺の御理解をいただいて、よろしくお願いたします。

ちょっと小耳に挟んだんですけど、今、山口市のほうでは商店街のほうでも3Dプリンターの講義を1時間程度受ければ使用できるような環境があるということをお話をしたときに、岩国市でも3Dプリンターを購入するような話を耳にしたんですけど、そこら辺の状況をちょっとお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） 3Dプリンターにつきましては、27年度で予算を要望し、認めていただきましたので、8月に3Dプリンターを、余り高い部類のものではないんですが、購入をいたしました。今、実際にその3Dプリンターを、指導者等が使い方について検討をしております。近々、いろんな教室、講座等で使用してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願をいたします。

○11番（武田伊佐雄君） それでは、子供たちもいろいろ触って見たらいろいろな発想が生まれてくると思いますので、今後もそういった設備についてしっかりと充実したものができるようにお願いたします。

それでは、先月、科学の甲子園ジュニア山口県大会の結果を新聞で拝見いたしました。科学の分野においても、さまざまなコンテストがあります。日本のエジソンとうたわれている藤岡市助さんを輩出した岩国市において、さまざまな分野別、レベル別のしっかりしたプログラムを計画し、中学、高校生にも対応できる内容のものを提供していただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○教育次長（小田修司君） お答えをさせていただきます。

現在、科学センターでは、科学に関する研究や作品について募集を行って、岩国市の教育委員会自身でも表彰を行っております。それと、優秀な研究や作品につきましては、山口県教育委員会が主催しております山口県科学作品展や山口県の科学発表会に出展しております。それと、科学センターに出展された作品や研究で最も年間を通じてすぐれていると思われるものにつきましては、藤岡市助顕彰会と共催で藤岡市助博士科学振興表彰という表彰を行っております。

議員御提案のさまざまなコンクールというのが全国でございまして、そういうさまざまなコンクール等につきましては、今後情報収集に努めて、学校等に情報提供等ができる方法につきまして検討をしてみたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） では次に、科学センターの担う役割について再質問させていただきます。

「今後は、市内の民間企業への働きかけを行い」とありますが、互いの特徴や強みとはどのような認識をされていて、どのような協力を求めるつもりなのかをお聞かせください。また、これまでの取り組み状況をお示ください。

○教育次長（小田修司君） お答えさせていただきます。

互いの特徴や強みとは、産官学の特徴、例えば産業界、いわゆる企業の場合でございまして、専門的な科学技術やノウハウ、さまざまな技術を持っておられます。その技術を可能な限りで子供を含め市民の方に科学センターと協力して伝えていただきたいと思いますと考えております。それとまた、産業界に、企業等に対しましては、科学センターのさまざまな活動に対しまして、経費面、実際にお金だけではなくて、物とかでもあるんですが、経費的な面で支えていただきたいと思いますというふうに考えております。それと、大学等に対しまして、高度な技術、情報、実験器具等を持たれておりますので、そういうところにも御協力を今後も強く求めていきたいと思っています。

それと、今までの企業との連携でございまして、青少年のための科学の祭典につきましては、中国電力などから出展をいただいている事例はございまして、市内の企業に対して今まで積極的に働きかけを行っていなかった面がございまして、今後につきましては、市内の企業に科学センターの役割等につきまして、それと活動内容について、丁寧に説明をさせていただいて、いろいろ科学センターの活動に対して御協力をいただくよう努めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○11番（武田伊佐雄君） しっかりと大学や、それから企業、また一般の法人とかにも協働の形で御協力いただくようにして、これからも科学センターの充実を図っていただきたいと思います。

それでは、整備計画についてお尋ねいたします。

平成12年に3,000平米の科学センターの構想があったかと伺っておりますが、実現されておられません。昨年までの14年間、どのような動きがあったのかお示ください。

○教育次長（小田修司君） お答えをさせていただきます。

議員の言われたとおり、平成12年3月に科学センター基本計画策定審査委員会から報告書が提出をされております。報告書の内容については、建築延べ床面積が約3,000平米、建設費用につきましては、当時の見積もりでございまして、消費税が別で15億3,800万円の案が提案されております。報告を受けた後、庁内の協議におきましては、プラネタリウムの必要性や建物の規模に合った用地の確保等の課題が指摘をされ、事業規模について見直しを含め協議を行ってまいりました。

そうした協議を行っているやさきの平成13年3月に芸予地震が発生しまして、旧岩国市の庁舎が大きな被害を受けました。このことによりまして、庁舎建設が市の最重要課題ということで、科学センターの建設については一時留保、そして、科学センターにつきましては、新庁舎完成後は当面の間、庁舎完成後にあく麻里布庁舎に移転して当面事業を行うという方針になりました。このことによりまして、

平成21年1月に科学センターは山手庁舎から麻里布庁舎に移転をいたしました。施設の面積につきましては、利用できる面積が427平米から523平米に増加をいたしましたし、移転後の平成22年には空調機器や照明機器が更新をされております。しかし、先ほど教育長が壇上で申し上げましたように、麻里布庁舎は科学センターとして整備されたものではございませんので、科学センターの活動を十分賄える施設とは言えません。

今後につきましては、平成28年度に策定される公共施設等総合管理計画との整合性を保ちつつ、科学センターの役割が果たせる施設の整備に向けて、教育委員会として最大限に努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

○11番（武田伊佐雄君） 先日、9番議員から、インフラ整備については2020年問題との発言がありました。これからのまちづくりで考えておかなければならない重要な課題と私も思います。そこで、科学センターの今後の見通しをどのように考えているか、現時点でのお考えをお聞かせください。

○教育次長（小田修司君） お答えいたします。

2020年ですが、平成32年は戦後75年になり、これ以降につきましては、団塊の世代と言われる昭和20年代生まれの方が75歳以上となります。このことから、医療や福祉にかかわる費用が急増すると言われておりますが、教育委員会としては、このようないろんな大きな課題を解決するのは人の力であり、人の能力だと思っております。そして、人の力と能力を高めるものは教育というふうと考えております。

新たな科学センターの整備につきましては、平成12年に示された案を見直したとしても多額の経費がかかるとお考えです。ただ、科学を通して人をつくる、高い志を持って国内外で活躍できる人材をつくるという趣旨で教育委員会としては思っておりますので、科学センターの整備はこれらから育ていく未来を担う子供たちから社会に還元されるものだと考えておりますので、教育委員会としては、科学センターの整備については、先ほど申しましたように、最大限に努力をしてみたいと考えております。

○11番（武田伊佐雄君） 岩国市教育基本計画の中に、科学センターは暮らしの中に科学の花を咲かせるセンターづくりとあります。科学を身近に感じる施設運営を心がけておられるのだろうと推察いたしますが、優秀なスタッフを多数抱えられていると教育長も自負されておりますので、渋谷区のスローガンである、渋谷からノーベル賞をとったインパクトのあるスローガンが欲しいと思います。高い志でのどのように考えられているのかお聞かせください。

○教育長（佐倉弘之甫君） 先ほどの中で、強みは何かと特色は何かということがございましたが、まず私から言わせて、本当に今、OBの理科の教員——校長を経験した方もおられますが、本当に優秀なスタッフを抱えているという、これは本当に他の市町以上のものであるというふうに自負しております。それを私どもが十分に使えていないかなという思いがして申しわけないところが一つあります。

それから、親子のニーズがとてもあるということでございます。科学の祭典等には、由宇の山の上に延べ、親子で700人ぐらい、あるいは今度11月8日に市役所の1階でやりますので、ぜひ来ていただきたいというふうに思っておりますが、本当にニーズがあって内容的にすばらしくて、その内容の中で、中学生を手伝わせたり、高校生を手伝わせている。そしてその中学生が高校生、高校生が大学、社会人になったときに、そうした方面に進もうとしている子も何人かいるという話も聞きます。非常につながっておるので、ぜひそのためには私も、先ほど次長が言いましたが、次長は行政の立場の中で言わせて、私は行政の中でも教育長という立場の中で、教育長になってから、優先順位の本当に高く、科

学センターが本当に欲しいということをお願いをしているところでございますが、場所の問題、財源の問題等々がありますので、これこそやっぱり一緒になって、特に先般からいろいろ地方創生の戦略会議等の中でさまざまなことが述べられた中に、一緒になって考えていけたらありがたいなという思いを持っておりまして、これはぜひ近い将来、教育委員会にあつたら——第2の藤岡市助さん、それから根岸英一さんは帝人におられたということで、市長室にも表敬に来られましたが、そういう方々もおられるし、女性では相馬芳枝さん——由宇出身ですが、化学のほうですが、非常に環境問題等……。

○議長（桑原敏幸君） 教育長、時間がないので的確に。

○教育長（佐倉弘之甫君） はい。ちょっとここは大事な問題ですから、済みません。

○議長（桑原敏幸君） やるかやらんかちゆうようなこと。

○教育長（佐倉弘之甫君） ありがとうございます。そういうことで申し述べたいというふうに思っております、一緒になってやりたいということで終わります。

○11番（武田伊佐雄君） 家族の要望がすごく、需要がすごく高いというのは、私も子供を連れていっているのでよくわかっています。大事なことは、しっかりとした講座、それからまた岩国市を中心とした生活圏内の人々が集まっても、それにまた対応できる、そういった施設の整備に御尽力いただきますよう提言いたします。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（桑原敏幸君） 以上で、11番 武田伊佐雄君の一般質問を終了いたします。